

「真の誇り」ヤコブ1：9～11 堀田修一 21・1・31

I 「富んでいる人は、自分が低くされることを誇りとしなさい」：10。「自分が低くされること」＝自分の罪深さや弱さを示され、へりくだされ、主を信じ救っていただく恵みを誇りとする。世界中の富を集めても神の素晴らしい救い＝罪の赦しと永遠の命を買う事が出来ないことを知り、心が低くさせられる。富が人を救うのでなく、主を信じる信仰、偉大な神こそ人を救い、頼りになる神と悟られ謙虚になること。このことこそ、真の栄光、誇りである。「なぜなら、富んでいる人は、草の花のように過ぎ去って行くからです」：10。それも「働きの最中に消えて行くのです」：11。その人の富が、かえってその人の心を高慢にさせ主を信じない者とし、墮落させ、高慢や姦淫、不品行の罪で人生を踏み外すこともある。そして、どんなに金持ちでも、突然の病気や事故による死などいつか死を迎える。死後の世界に財産を持って行く事は出来ない。パレスチナ地方では、太陽が熱風を伴って上って来ると草を枯らす。人の命は、この草のように、はかない。人生の突然の風は、一時的に世にもてはやされている「花」を落とし、世の「美しい姿」を一瞬にして変えてしまう。それゆえに、頼りにならないこの世のものではなく、永遠に変わらない主（ヘブル13：8）と聖書の御言葉（イザ40：7，8）と主の十字架の恵みに拠り頼もう。命も、すべてのものも（太陽、光、空気、雨、風、土、地熱等。貴重なエネルギー源。安全な方法で活用できるもの）与え主は神であることを決して忘れてはならない。ある金持ちの言葉。「わがたましいよ。これから先何年分もいっぱい物がためられた。さあ休め。食べて、飲んで、楽しめ。」しかし、神は彼に言われた。『愚か者、おまえのたましいは、今夜おまえから取り去られる。おまえが用意した物は、いったいだれのものになるのか』（ルカ12：19，20）。真の神は、私たちのいのち、すべてのものを支配しておられる。私達の命が、今日あるのも神の恵みである。「あなたは、何か、もらったものでないものがあるのですか。なぜ、もらっていないかのように誇るのですか」I コリ4：7。私たちは、母の胎で命をいただいたときからすべてのものを神からいただいているのです。真の誇りは神のみ、私達の救いの為の主の十字架のみです！聖歌722「きみ（主イエス）のいさお（手柄、功績＝私達の罪の為の主の十字架、贖いの完了）ほむべきかな十字架の他は我、誇らじ＝誇りません」

II 「身分の低い（貧しい）兄弟は、自分が高められることを誇りとしなさい」：9。「自分の高い身分」とは＝この世での社会的階級がどうであろうとも、主を信じて、主にある者として、「神の家族」（エペ3：19）、「神の子」という特権（ヨハネ1：12）、神の祝福を相続できる「相続人」（ローマ8：17）という身分が与えられている。過去・現在・将来の罪の赦しと永遠の命と永遠に神の子として愛される特権が与えられている。そして、神の下さる恵み、愛は計り知れず豊かであり、また余分なものではなく、本当に必要なものを神は与え続けてくださる。人と比べて多く持っていることを誇る人よりも、真に必要なものを日ごとに神に祈り求め、神から日ごとの糧を与えられ、それを心から感謝して生きる人、日々神による必要の満たしを感じながら生きる人は真に幸いな人です。

Ⅲ 真に満ち足りた人生の秘訣。次の御言葉を人生の土台として生きる

1. 自分の幸い度を人と比べて量ることをしない。「彼らが自分たちの間で自分を量ったり、比較したりしているのは、知恵のないことなのです」Ⅱコリ10：12。神は神のお考えで、私たちそれぞれに賜物、能力、必要を量って割り当てて与えておられる。そこに神を認め、神が量って割り当てられた分に満足し、心から感謝して、まず①神への感謝、礼拝献金、月定献金（「わたしがあなたがたのために、天の窓を開き、あふれるばかりの祝福をあなたがたに注ぐかどうかをためしてみよ」マラ3：10）を神にささげる。人生の中でコロナ禍や不況で、本当に貧しく、捧げることが難しい時も神は理解して下さる。その時は、自分にできる分を感謝しつつ捧げたい。人と比べないで。「一人ひとり、いやいやながらでなく、強いられてでもなく、心で決めたとおりにしなさい。神は、喜んで与える人を愛して下さるのです」Ⅱコリント9：7。②自分たち家族の必要に用い、③必要としている人々に分け与える。ささげものは、律法主義からではなく、神から受ける豊かな恵みから生まれる。「マケドニヤの諸教会に与えられた神の恵みを、あなたがたに知らせようと思います。苦しみゆえの激しい試練の中にあっても、彼らの満ちあふれる喜び（主に救われた喜び、主の恵みを感謝する喜び）は、その極度の貧しさにもかかわらず、あふれ出て、その惜しみなく施す富となったのです」Ⅱコリ8：1, 2。

2. 満ち足りる心「満ち足りる心を伴う敬虔こそが、大きな利益を受ける道です。私たちは、何もこの世に持って来なかったし、また何かを持って出ることもできません。衣食があれば、それで満足すべきです」Ⅰテモテ6：6～8。ある意味で、今与えられているもので満ち足りる心を持っている人は、すべてを持っている人である。多くの物を持っていても、満足、感謝の心を持っていない人は、幸いを手にする事は出来ない。

3. 今持っているもので満足する、感謝する。「金銭を愛する（神よりも金銭を愛する）生活をしてはいけません。いま持っているもので満足（それを感謝し用いる）しなさい。主ご自身がこう言われるのです。『わたしは決してあなたを離れず、また、あなたを捨てない』ヘブル13：5

4. すべての与え主を忘れない。「富と誉れは御前から出ます。あなたはすべてのものを支配しておられます。あなたの御手には勢いと力があり、あなたの御手によって、すべてのものが偉大にされ、力づけられるのです。私たちの神よ。今、私たちはあなたに感謝し、あなたの栄えに満ちた御名をほめたたえます。このように自ら進んで献げる力を持っているとしても、私は何者なのでしょう、私の民は何者なのでしょう。すべてはあなたから出たのであり、私たちは、御手から出たものをあなたに献げたにすぎません」Ⅰ歴代29：12～14

5. 感謝の心を持つ「感謝の心を持つ人になりなさい」コロサイ3：15。心の中の感謝のスイッチを押すか、不平不満のスイッチを押すかは、私たち次第。※証し。他人と比べて貧しいか、金持ちかではなく、神が自分に分け与えておられるものを一つ一つ数え心から感謝する人は、真に心の豊かな人です。※証し：神が、真に必要なものを与え、余分なものを与えられないのは神の愛の配慮。私達が、心の中で欲しいと求めるものを神がすぐに家に届けられるなら、私達の家は物が多過ぎて、私達がいるスペースもなくなる。神が、真に必要なものを与えて下さるのは真の恵み。本も購入する物と図書から借りる物を識別したい。

大切な御言葉「貧しさも富も私に与えず、ただ、私に定められた分の食物で、私を養ってください」

箴言30：8

祈り：神から与えられたもので満ち足り感謝し、神と人への感謝の心を持つ人に変えられ続けますように。すべての与え主の神ご自身と私達の救いの為の主の十字架を誇る者として下さい。